

IFSW は、即時の停戦と、ガザ地区の封鎖及びすべてのパレスチナの占領からの撤退に向けての平和交渉の再開についての国連の呼びかけを支持する

(IFSW ニュース 2014.07.28)

IFSW は、国連の本日の声明、すなわち、ガザ地区の封鎖及びすべてのパレスチナの占領からの撤退に向けての平和交渉の再開を支持する。

IFSW は、単にパレスチナとイスラエル国民だけではなく世界中の他の国々にも害を及ぼしているこの長期にわたる葛藤の解決のために、国際的な緊急の決断が必要であることを認識している。

世界中の全市民と同様にソーシャルワーカーも常にガザの攻撃、避難所で亡くなる生命、学校や病院への爆撃と介入、ウェストバンク（ヨルダン西岸地域）の住民の制約などに関してひどく心を痛めている。

ソーシャルワークの価値はすべての人の尊厳と価値をその中心においている。そしてイスラエルにおいてもまたパレスチナにおいても多くの人々はこれらの価値をこの葛藤を終結させるためにあてはめなければならないと感じているに違いない。葛藤は人々への抑圧と不当な占領から起こっている。国際社会からの圧力により、地域の変化が促進され、将来的にイスラエルとパレスチナの住民が平等に暮らすことができるような方向に進んでいくことが期待される。

先週、IFSW は 115 以上の国の代表者に対して、かれらが自国の政府に対して、ソーシャルワークの原理である自己決定に基づいて、新しい平和の話し合いを支援するようにアクションを起こすことを求めた。すなわち、パレスチナ国民は占領されることのない自分たちの将来を決定し、またユダヤ教の信仰をもつ人々は自分たちの将来について決定する。ソーシャルワーカーは他人の権利を否定しない社会や地域における多様性を尊重する。

ソーシャルワークの原則には、能力を育てること、社会的、経済的平等性、平和的解決としての社会的な保護があるが、それらは利得や発展や不可欠な妥協についてあてはめることができる。イスラエル人にとってもまたパレスチナ人にとっても、もし彼らがこれらの原則を行動にあてはめるならば必ず明るい将来がもたらされるに違いない。

ソーシャルワーカーがウェスト・バンク（ヨルダン川西岸地区）で射殺された

(IFSW ニュース 2014.07.29)

ハシム・カーデル・アブ・マリア（45）は先週、ガザに連帯するデモ行進に参加中に殺害された。イスラエル軍の銃弾はハシムの胸に命中した。それは彼がウェスト・バンクのベイトウマーの町での金曜日の礼拝に参加した後にガザのパレスチナ人に連帯するデモ隊に参加して静かに立っていた時のことである。100メートルの距離から発射された

銃弾が彼に命中した時、彼は暴動に加わっていたわけではない。この行進で、反抗した 2 人が殺害され、少なくとも 10 人が負傷した。

ハシムは国際児童防衛の地域動員部門のコーディネーターとしてパレスチナの占領地区を回って子どもたちの建設的な参加を呼びかけてきた。彼が最近手がけた仕事は、彼がヘブロンで行った児童の権利の侵害に関する、パレスチナ 10 代の若者たちへのモニタリングとドキュメントである。

ベトレヘムのソーシャルワーカーとサイコロジストとのパレスチナ連合の代表者によると、ハシムはソーシャルワーカーであり、人権活動家であり、ヘブロンのソーシャルワーカー連合の設立にもっとも積極的にかかわったメンバーの一人であるとのことである。PUSWP はこの殺害を「悪質な犯罪」と断じた。IFSW の事務総長であるロリー・トゥルエルは、世界中のソーシャルワーカーは彼とその家族と地域と PUSWP に対して心からの哀悼の意を表するだろうと述べている。

ハシム・カデル・アブ・マリアの死後、サミル夫人と息子のアイハム 11 歳と二人の娘、シバ 6 歳とマイダル 13 歳が残された。